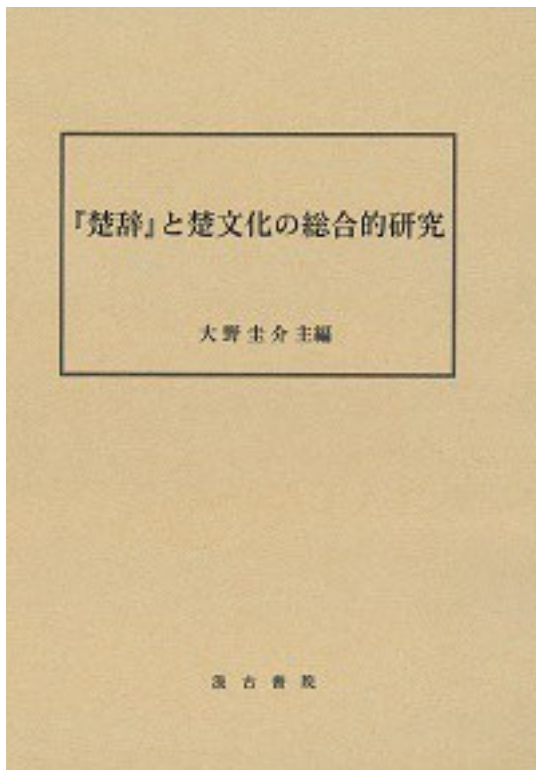


『楚辞』と楚文化の総合的研究



[『楚辞』と楚文化の総合的研究_下载链接1](#)

著者:「『楚辞』と楚文化の総合的研究」編集員会 編

出版者:汲古書院

出版时间:2014-2-10

装帧:精装

isbn:9784762965210

<http://www.kyuko.asia/book/b166012.html>

【序一「信屈」「疑屈」を超えて一】より（抜粋）

本書は2009年度から2012年度まで4年間に亘る文部科学省科研費・基盤研究(B)一般「中国古代戦国期における楚文化の学際的研究—中原との関わりに着目して—」の研究成果をまとめたものである。

本書に収めた論文は、「『楚辭』の発生」「『楚辭』の展開」「『楚辭』の伝承」の3つの視点から『楚辭』文学の本質に迫ったものである。「Ⅰ『楚辭』の発生」には、近出の出土資料などの新資料を駆使し、『楚辭』がいかにして、どのような目的を持って生まれてきたかを探る論考5篇を収める。「Ⅱ『楚辭』の展開」には、『楚辭』の作品群が戦国期から漢に至るまでにどう展開したかを、出土資料・伝世文献・語学の各方面から探る論考5篇を収める。「Ⅲ『楚辭』の伝承」には、『楚辭』やその注釈に表現されている楚国や屈原のイメージの分析を通じて、『楚辭』がどのように伝承されていったかを探る論考3篇を収める。

これらの論考で『楚辭』の主要作品はおおよそカバーしており、その排列は3つの視点の順であると同時に、ほぼ『楚辭』の諸作品の時代順にもなっていて、立体的な構成となるよう工夫している。すべて13篇の論文の中心近くに位置する石川三佐男「古代楚王国国策と考古出土資料から見た楚辭文学の発生と展開」は本書の根幹をなすものであり、当プロジェクト最大の成果と言えるものである。そこで主張されている、楚国の「国策」という観点から『楚辭』を見直すという基本方針は、メンバー皆が共有しているものであるが、本書の論文の中には「国策」の観点により直接的に迫る論文もある一方、政治とは直接かかわらない主題を追究した論文もある。13名の執筆者の間には当然それぞれに分野の違いや研究の積み重ねがあるし、その拠って立つ方法も様々である。先に「立体的」と言ったのはそうした立場の違いも含めてのことであり、それこそが冒頭で述べた「分野や方法論の枠を超えてそれらを有機的に融合させた研究」という当プロジェクトの眼目なのである。

作者介绍:

目录: 序——「信屈」「疑屈」を超えて——	
.....	大野圭介
Ⅰ 『楚辭』の発生	
論《楚辭》產生的楚史與楚文化因素	
.....	徐志嘯
「強死」考——「強死」と楚人・楚の巫風との関係を中心として——	
.....	中村 貴
「離騷」蘭芷佩服考——巫祝と香草	
.....	澁澤 尚
屈原詠歎伍子胥及《九章》作品真偽問題	
.....	黃 靈 庚
古代楚王国国策と考古出土資料から見た楚辭文学の発生と展開	
.....	石川三佐男
Ⅱ 『楚辭』の展開	
『楚辭』天問篇の存在意義について——『楚辭』四言の特徴から——	
.....	吉富 透
隱棲と死——「九章」諸篇の主題について	
.....	大野圭介
前漢「郊祀歌」十九章と「九歌」	
.....	谷口 洋
關於《楚辭》中之楚語研究的問題	
.....	湯 漳 平
『楚辭』韻表	
.....	
野田雄史	
Ⅲ 『楚辭』の伝承	
『楚辭』における「楚」字——二招の国名を手掛かりとして——	

..... 田島花野
孔子と屈原――漢代における屈原評価の変遷について――
..... 矢田尚子
王逸『楚辭章句』注文にみる屈原像の祖型――電子文献を活用した系譜研究の試み――
... 田宮昌子
あとがき／中文提要／執筆者紹介
..... ([收起](#))

[『楚辞』と楚文化の総合的研究_ダウンロード1](#)

标签

楚辞

楚文化

评论

[『楚辞』と楚文化の総合的研究_ダウンロード1](#)

书评

[『楚辞』と楚文化の総合的研究_ダウンロード1](#)